



Monthly Theme

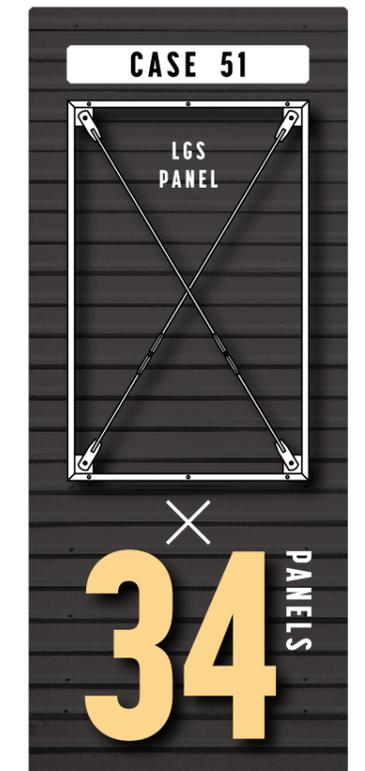
## 軽量鉄骨LGSシステムで表現する 古代と現代的センスの融合

日本人のこころのカタチを表現する建築文化、神社建築に  
LGSシステムで挑戦してみる試みです。  
古代とモダンが錯綜する不思議なフォルムが出来上がりました。



大きな屋根部分“合掌”は、金属的な屋根材をまるで魚のうろこのように表現するモダンなイメージ。屋根にアクセントを持たせるため、横一列に規則的に並んだ排気口が、古い神社建築の“鯉木”を連想。短辺方向の面、いわゆる“妻側”はルーバー上の木と三角形のガラスFIX窓で構成されており、横から見た印象とは打って変わって軽快な印象です。内部は木と鉄の相性の良さを最大限引き出した空間デザインとなっています。

デイトナが提案する  
新しい建築のカタチ



### What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。“柱”と“梁”と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGS パネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分りやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

[www.daytona-house.com](http://www.daytona-house.com)

INFORMATION  
**LDKinc.**  
代表: 玉田 敦士  
[www.ldk.co.jp](http://www.ldk.co.jp)  
03-6228-4933

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。



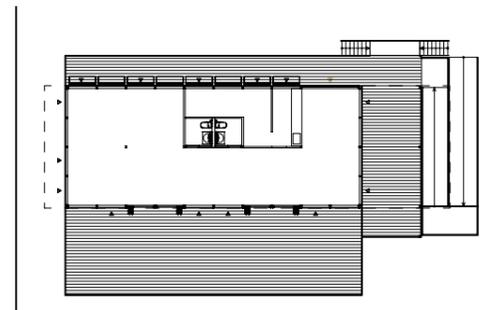
建物は高床式で一旦ふわりと浮かび上がらせています。更に、鉄骨メンバーが細いため、構造部分が視覚的にゼロ記号化し、あたかも中央部の白木の箱で巨大な合掌を支えているかのような印象のシルエット。神事のお供え物は三方（さんぼう）と呼ばれる台に置かれるが、建物フォルム自体が巨大な三方を連想させています。

長崎県のとある由緒ある神社から、社殿をLGSシステムで建築できないかと依頼がありました。古代から連続と続く日本人の宗教感覚、折りのカタチをイメージして、象徴的なモノメントに昇華させる計画です。しかも鉄骨を用いて。

社殿といえば、そもそも、私たちが新しい建築に際して行う地鎮祭でも建築的な舞台装置を設定します。笹竹を4本立てて、縄で囲って空間を分割し、その内部に祭壇を作る行為。最も原始的な建築の象徴だと考えています。これはまさに拝殿の象徴化。地鎮祭とは、神様が降臨されて、列席者とともに酒を酌み交わし、列席代表者の祈りの言葉（祝詞）を聞くという、その一連のストーリーを形式にした儀式ですが、その中心にあるのが、この4本の竹で象徴された拝殿なのです。

つまり荘厳なイメージではなく、土の上にある極めてシンプルな代。それが社殿本来のイメージなのです。今回はそのシンプルな古代人の感覚を頭の片隅に置きながら、一方で現代的にも象徴性を感じ取れるようなカタチを考えました。合掌。それは屋根の形状を現す言葉であると同時に、掌を合わせた謙虚な姿勢。軸組がもたれあって初めて強さを発揮する本質的で最も強いカタチ。一方で近代建築は一般に箱型ですが、実は自然の力の流れに逆らった人為そのもののカタチなのです。この建物の象徴性は空中に浮かびあがった巨大な合掌が担っています。

その時、鉄骨フレームとガラスウ



### FLOOR PLAN

実際の建築の面積よりもかなり大きく張り出した木製デッキが、この建物の長手方向の縦横比率＝プロポーションをさらに印象的なものに。崖側の木製デッキはあたかも清水寺の舞台のようにダイナミックで、思わず記念撮影してしまおう。軽快に見えるながら、鉄骨パネル工法なので、耐風圧強度も十分に計算されています。

オールは視界から消え、存在しているけど、印象を限りなく少なくする効果、いわゆる「ゼロ記号」になります。中央部にある社務所を囲う白木の箱に捧げ持たれた巨大な合掌。アンバランスでありつつ、安定感を感じる。矛盾を高い次元で昇華したような、折りのカタチ。それがこの建物のコンセプトです。

単に木を使って、和風を演出するのではなく、本質的な、こころのカタチを造形する。物事を深く考えれば、単なる素材という記号性を超越した表現に到達できるのかもしれないね。

Text/Atsushi TAMADA



デイトナハウスが

## ペット共生建築に 5 適している理由

POINT 1 そもそもスタンダードな仕様に  
インナーガレージがある



ビニールクロス張りではない土間＝ガレージ空間があることが、そもそもデイトナハウスの特長。ワンちゃんは大喜びです。

POINT 5 仕様によっては  
換気扇を完備



クルマの排ガス換気用の高性能なファン（吸気と排気）を標準装備しているため、ペットのニオイが空間内にこもることがありません。

POINT 4 ビニールクロス  
を極力使用しないため、  
傷みにくいし、ニオイも付きにくい



ニオイが吸着する素材、特にビニールクロスを極力排除して、銅板やケイカル板などを使用しているので、嫌なニオイがしみこむことはありません。

POINT 3 ガレージ床はモルタル×  
ウレタン塗装だから  
ペットに優しく汚れにも強い

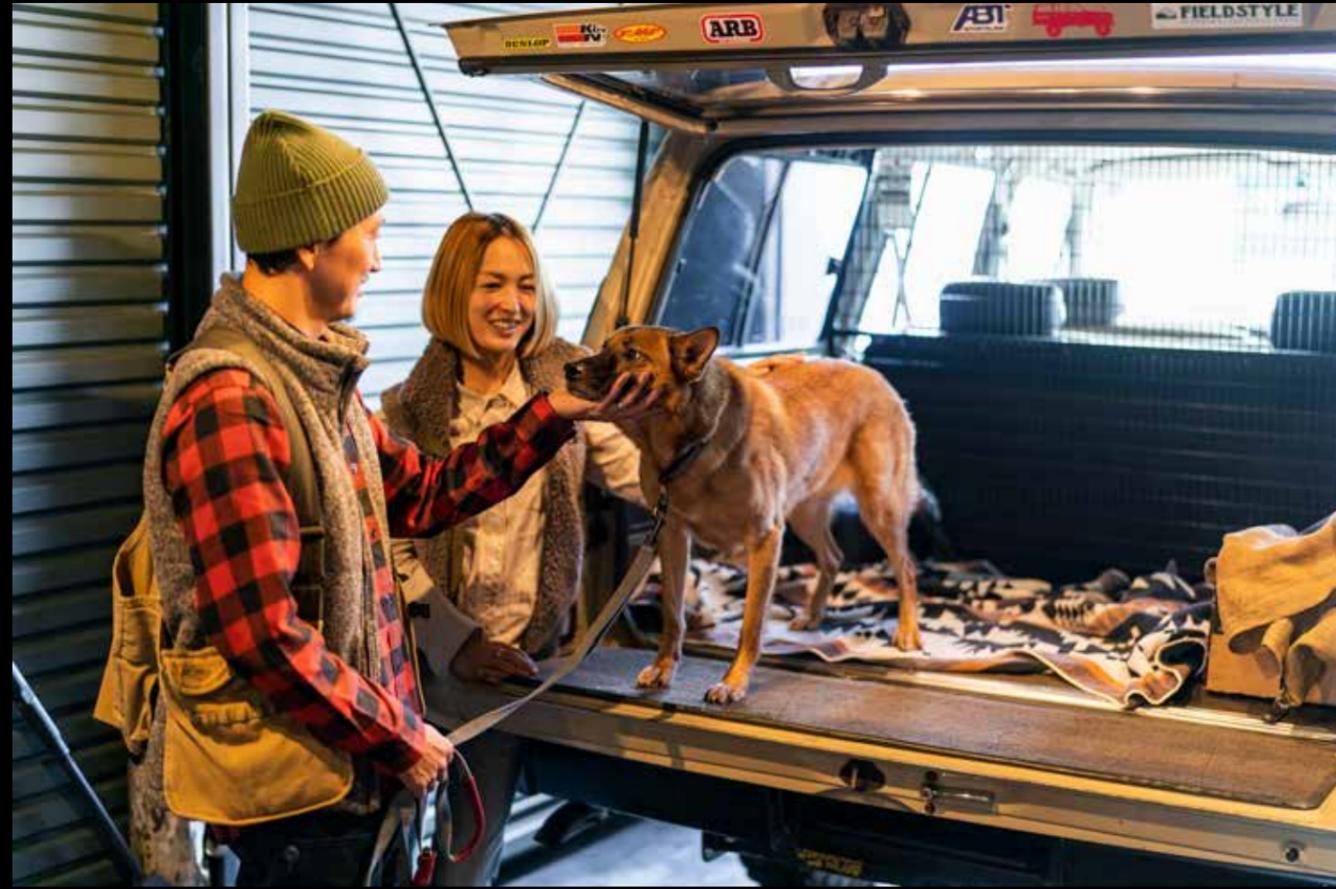


ガレージの床はモルタルの上にクリアウレタン塗装。セメントの粉が舞い立たない現代的な土間になっているので、汚れにも心配いらず。

POINT 2 鉄の構造体が  
剥き出しであるため  
ホロボロにならない



鉄骨の構造体や銅板の壁は、犬や猫がガリガリ引っ掻いても傷知らず。木の柱のように、犬が噛んだりすることはありません。



## ペット共生建築としてのデイトナハウス

ニッポン人が犬を“共に生きる仲間”と認識する感覚の歴史は1万年レベル。

“現代の遊動民”の住まいとしてのデイトナハウスは、ペットとの共生にも最適な住処なのです。



### ガレージは愛犬の プライベートな運動場

現代生活においては、とすればペットも運動不足になりがちです。ただ歩くだけの散歩じゃなくて、ほんとは道具を使って遊びたい。飛んだり跳ねたりしたい。デイトナハウスのガレージは、昔でいえば土間。ちょっと車を外に出して、遊びながら愛犬と言葉を越えたコミュニケーションができるスペースなのです。

ニッポン人と犬は、縄文時代からすでに仲良し。ペットという言葉を使うことなく、愛玩というイメージが付きまとい、西洋の貴婦人が飼っているマルチーズやトイプードルのような座敷犬を想像してしまいます。でも最近の考古学の研究では、ニッポン人は少なくとも縄文時代前期（8000年前）には、すでに犬と共生して生活していたことが証明されています。愛媛県の上黒岩遺跡跡で見つかった2体の犬の骨は、丁寧に埋葬され、2体とも歯の一部を失っていたため、猟犬だったことがわかりました。骨折の治癒後、猟犬としての機能を失った犬の埋葬事例もあり、縄文人が犬を大切な、共に生きる仲間と認識していたことを伝えているのです。その仲間意識は現代人にも生きています。それはとってつけたような、西

洋かぶれのファッションではなく、そもそも先祖伝来のものなのです。ちなみにニッポン人と猫との付き合いも古く、弥生時代からのものとされています。集団的な稲作を行い、穀物を貯蔵するようになった弥生時代の社会で、穀物を食い荒らすネズミの天敵として猫との共存関係が始まったとされています。長い年月の生活史の中に位置づけられた犬や猫との関係。私たちが暮らしの中に彼らを位置付けたいと思うのは、ごく自然なことなのかもしれません。高度にシステム化された現代社会だからこそ、犬や猫と共生したい！

には考えられなくなっています。とはいえ、それに背を向けて生きていくことは難しく、明るく元気にデジタル化を利用して生きていく、上手な生活が要求されます。だからこそもう一方の極、プリミティブなものとしてのペットとの共生は、いわば生活の基本条件です。私たちは同じ動機で、キャンプやアウトドアに行きたくなくなったり、火を起してゆっくり肉を焼いたり、内燃機関の鼓動を楽しんだりするのは、そこで求めているのは、プリミティブな生きる実感。ある意味コロナ禍のおかげ(?)で、満員電車から解放された人たちは、今後より一層、システム社会への順応と、プリミティブな生活のハイレベルでの両立を考えるようになるでしょう。

デイトナハウスはそもそも  
ペット共生仕様なのです

構造体を露出させる、骨格主義のデイトナハウスは、21世紀におけるプリミティブな住まいです。カタカナを使って表現していますが、よく考えてみるとガレージという、土間を持った、骨格露出の家。まさに現代の古民家なのです。ビニールクロスですべてを覆い隠す「ツッピンク」家ではない。犬や猫にもその空間はとて居心地のいいものです。何しろ新建材（ビニールクロスやフェイクな床材、揮発性の接着剤などは、室内空間にはほとんど使用していません。逆に言えば、ペット（動物）にとつて居心地のいい空間は、当然人間にとつても居心地がいいのです。

### 梁と開放感ある吹き抜けは ネコちゃんも喜ぶはず！

ネコちゃんはよじ登ったり、飛び降りたり、空間全体を使って遊ぶのが大好き。デイトナハウスの吹き抜け空間には、必ず鉄骨の梁があるので、ネコちゃんにはかっこうの運動場になるのです。しかも傷知らずです。梁渡り遊びがしやすいように、簡易なハンゴをつけてあげてもいいですね。



今回の動画を  
WEBで公開中！

